

# 令和4年 第4回文教厚生常任委員会会議録

令和4年3月28日 議員控室

## ○事 件

協議事項

- (1) 子育て支援政策について
- (2) 子育てに関するアンケートについて

## ○出席委員（8名）

委員長	赤 井 睦 美 君	副委員長	佐 藤 智 子 君
	大久保 建 一 君		倉 地 清 子 君
	黒 島 竹 満 君		齋 藤 實 君
	関 口 正 博 君		能登谷 正 人 君

## ○欠席委員（0名）

## ○出席委員外議員（2名）

議長	千 葉 隆 君		三 澤 公 雄 君
----	---------	--	-----------

## ○出席事務局職員

事務局長	三 澤 聡 君	庶務係長	松 田 力 君
------	---------	------	---------

[開会 午前10時20分]

### ◎ 開会・委員長挨拶

○委員長（赤井睦美君） それではお疲れ様です。

早速、委員会を開催いたします。今日は二点お話ししたいと思います。

### ◎ 協議事項

○委員長（赤井睦美君） 一点目は、住民生活課のほうから提案がありました、子育て支援政策について。今これちょっと待ってくださいって待っていただいているんですけども、そのことについて、実際に皆さんはどうお考えかを話し合いたいと思います。一個ずつ話し合っていきます。

まず、出産祝い金交付事業というので、少子化対策だと思いますけれども、新生児出生以前3か月以上八雲町に住民登録がある方たちで赤ちゃんが生まれると10万円お祝い金を差し上げましょうという提案です。結構いろんな町で出産祝い金を出している市町村があります。多いところでは第1子目から50万円というところもありますし、1子2子はないけれども、3子目で100万円というところもあるようですけれども、果たしてこれが少子化対策につながるかどうかということと、あともう一個は、出産後世帯の経済的負担の低減を図るということもありますけれども、このことについて、皆さんはどうお考えでしょうか。マイクを使いながら自由にお話しください。よろしく願いいたします。

○委員（大久保健一君） 意見を言えばいいの。

○委員長（赤井睦美君） はい。質問されても困る。意見を言ってください。

八雲町は、やっぱり他所のまちに比べたら、給食費無料、それから医療費無料、それで保育料は国も無料としておりますけれども、それは3歳以上で0、1、2に関しては軽減していて八雲町は凄く力を入れているんですね。だからそのため他町村に比べたら随分子育に係る経費は少なくて済むかなという思いはあります。

元々お支払いしていた方からしたらものすごくお得感があるんですけども、はじめから無料だとあまり感じないと思うんですけども、そこは他町村に比べてすごく充実していると思いますし、先を走っているという感じはあります。だからそれを新生児一人につき10万円がいいのか、3人目で50万がいいのか、そういう考え方もあると思うし、やはり実際にいらんんじゃないという考え方もあると思うんですけども、いかがでしょうか。出産の費用は今のところ無料ですね。

○委員（大久保健一君） 無料なの。

○委員長（赤井睦美君） あとから戻ってくる。

○委員（佐藤智子君） そのときは40万くらい

○委員（大久保健一君） 公立病院ならだいたいまかなえるけれども、市立病院だったらまかなえないくらいになってきてるんじゃないの。

○委員長（赤井睦美君） そんなことはない。

○委員（大久保健一君） はい。

○委員長（赤井睦美君） 大久保委員。

○委員（大久保健一君） 意見ね。

単純なお祝い金とするのであれば、妥当な金額かなと思います。出産費用はまかなえるにしても、おむつだとかその他経費は当然かかってくると思うので、あくまでもお祝いのなばらまき政策というか、そういう意味でいけば意味があるのかなと思うけれども、少子化対策としてのこれがきっかけで少子化の対策になるかといったら、まだまだ金額的には小さいものかなというふうには感じています。本来であれば、二人目、三人目のほうに重きを置くのが対策としては意味があるのかなという気がしますけれども。

○委員長（赤井睦美君） お祝い金として一人目から10万円はいいんじゃないかと。お祝い金としてだったら妥当じゃないかと。ただし少子化を本気で考えるなら、二人目、三人目なら30万とか50万もという意見ですか。

○委員（大久保健一君） 10万円も賛成でも反対でもないんだけど。

○委員（関口正博君） はい。

○委員長（赤井睦美君） 関口委員。

○委員（関口正博君） 僕自身はですね、出産祝い金がよくないかと思うんですけど、試算が出ていますが、令和4年3,760万、令和5年が6,830万、この制度をずっと続けられる根拠があるのであれば、それはよろしいと思うんですけども、金額的には大きいですよ。当然これから少子化になっていくので出ていくお金が少なくなるかもしれませんが、きちんと担保する、当然、ふるさと応援寄附金があるうちはよろしいかもしれませんが、これだっているんな情勢を考えたときにどうなるか分からないので。ましてや小学生中学生の入学祝い金、生活困窮者に対しては別に出していますよね。町として。その辺をきちんと充実させる、しっかりとしたメリハリをつけるという部分で。この入学祝い金というのはもうちょっと慎重に考えたほうがいいのではないかなと。むしろ出産一時金で、これはあちこちの自治体もやっているという前例があるので、金額はさておいて、この制度はいいにしても、入学祝い金に関してはもうちょっと慎重に審議するべきだと思います。

○委員長（赤井睦美君） ほかにありませんか。

○委員（斎藤 實君） はい。

○委員長（赤井睦美君） 斎藤委員。

○委員（斎藤 實君） 少子化対策ということを考えたら、全体でもって考えていかないと、今の10万円だけがどうだというと、ちょっと違和感あるなって感じも。全体でものを考えたほうがいいかなって。少子化対策は。そのように思います。

○委員長（赤井睦美君） 文厚委員会は、総合病院とか病院も自分たちの調査項目に入っているんですけども、今後の支出、本当にこの先、中長期に考えたときに、病院の維持とか高齢者が増えていくという問題を考えたら本当に支出は多くなって、その中でこの祝い金、いつまでできるのか関口委員じゃないんですけども、やっぱり不安も残るし、その辺も委員会として全体を見ながら考えていかないと、これだけ良いか悪いかとなってしまうと、後々の支出が大変かなっていう不安もあります。

○委員（佐藤智子君） 少子化対策っていうことではなくて、お祝い金ということであれば、10万円くらいというのが妥当ではないかなというのが私としてはそういうふう思うんで

すけれども、まずひとつずつ話すということだったので、出産祝い金に関しては、もし町がまだその気があるなら、自分としては反対するものではないなと思います。

○委員長（赤井睦美君） ほかにありませんか。

○委員（倉地清子君） はい。

○委員長（赤井睦美君） 倉地委員。

○委員（倉地清子君） これは皆さんと同じような話になってしまいますけれども、出産一時金の10万は私も妥当だと思っていて、二人目、三人目のそこをあげるということを考えるのはすごくいいことだなと私は思います。ただ、転勤される方の保護者様からお話を聞く限り、八雲町はかなり子どもの支援を手厚くしてくださって、すごく助かっているという話は多数聞いています。以上です。

○委員長（赤井睦美君） ほかにありませんか。

なければ三澤議員どうぞ。

○委員外議員（三澤公雄君） 前回のときに行政がやりたいこと止めてるんだから、このことを一回議論しようと言ったんですけれども、こうやって試算表まで提示されていると、委員長がおっしゃるように、子育て政策全体を見たときに必要なのかってそこに戻りますよね。このお金があるなら、もしくはこれを許してしまうと、これから手厚くしたい子育て政策に向けるお金が減るのではないかということが。ちょっとこの場面でいうことではないかもしれませんが、例えば子育てにしても、未だにやっぱり仕事休むとしたら女性、仕事辞めるとしても女性という感じ。育児休暇制度が八雲町はできています。役場は。でも会社の中ではできていないところもあったりして、八雲町全体で子育て支援をするのであれば、そういった片方のせいにだけしお寄せする町ではないかたちで、男性も休める環境にするとか、お給料の部分でもなにかそういった町全体で取り組めるような政策にお金を使っていくということをやっていくということも、お金の使い方としてはストレートに出産奨励にもなったり、子育て支援になるんじゃないかなと思うんですね。この間はそこが自分も抜けていたなと思ったので、そういった考え方をする機会、アンケートをやるということになりましたが、あらためてこの令和8年度までの累計する金額を見たときに、もっと違う使い方があるなと初期での委員長の提案が改めてストンと落ちました。

○委員長（赤井睦美君） ほかにありませんか。

今のところ多数決でとるわけにはいきませんが、今のところ祝い金はいいのではないかなという意見が多いのですが。

○委員（斎藤 實君） 先ほどの大久保さんの2子とか3子になったときに金額が高くなってくるんだけど、一定の地域があるんだけど、それで本当に対策になっている情報とかそういうデータはあるんだべか。聞いたことがあります。

○委員（関口正博君） 結構やってるところはありますよね。

○委員（斎藤 實君） 多いけれども、それが実になっているのかどうなのか。

○委員（関口正博君） どうなんですかね。

○委員長（赤井睦美君） それだけではなんないんですけれども、やっぱりそのときに高くお金払っている地域は、割と子育て世帯を移住させている地域が多くて、その子育ての今言った支援策がほかにも充実してるんですよ。働くときにはちょっとだけ預かってくれる

ところがあるとか、雨が降っても遊べる施設があるだとか、病児病後児保育があるだとか、そういうのが重なっていて奨励金が高いと、そこにいくけれども、あと教育機関ですね。小学校に入ったら英語が話せるとかそういう幼稚園、保育園から英語もやっているとところに力を入れている自治体は子どもも増えているし移住も増えているという部分もありますけれども、お祝い金だけではやっぱりなかなか増えてませんね。

○委員（斎藤 實君） やっぱりトータルだよな。

○委員（大久保健一君） ただ、少子化対策に対して、それが理由で増えているなんていうのはどの政策でもないと思いますよ。これをやったからといって少子化対策、子どもが増えているというのは、多分三笠や江別だとか、ベッドタウンとして一周できるパイが近くにあるところだったらそういうことがあるかもしれないけれども、単独で八雲町これだけ離れているところは、やってもそれだけがあるから産んでみるかなんていうのは思わないと思いますけれども。

○委員（斎藤 實君） 北海道にいても、おやじの働いている場所がちゃんとして、そして少子化のいろんなものがこっち揃っているからって今言うように住まいはこちらにしてという、そういうところは地域的に見てあるよね。

○委員（関口正博君） 移住者対策って、もちろん一生懸命やっているところもあるんだけど、お金で動く層は簡単にお金で出ていきますから。だからそこが本当に重要なのではなくて、少子化はある程度止められるものではない部分があるし、少子化の問題点はやっぱり学費とかそのあたりではないんだけど、いろんなところにあるのかなって気がしますがけれども。

○委員長（赤井睦美君） 一応これ令和8年まで見込み人数が100人でみていますけれども、今年から70何人に減って行って100人分はかからないと思うんですね。今後。まず結婚する人が減っているというか、結婚する若者が減っていて出産以前の問題で、この100人はきつくないと思いますけれども、でもこの10万円、お祝い金としてならいいのではないかという考え方ですが、5年間で5千万円。

○委員（佐藤智子君） また総合的に見て、いらないんじゃないという方向に行くこともあるのかなって思ったんですけども、部分的に言うとやっぱりいいんじゃないのって思っちゃうから。総合的に見てこういうところに使いたいからこれはないほうがいいなと思うのであれば、これに特化しなくても思いもわいてきました。

○委員（関口正博君） そもそもどういう根拠で入学の10万って出してきたの。

○委員長（赤井睦美君） 前に、制服助成金を出してほしいというのを文厚から出したんですね。だから制服の助成というよりは小学校の卒業祝いを出すことによって、制服の助成になるんじゃないかというそういう発想もありまして。そういうことから。

○委員（関口正博君） なるほど。

○委員長（赤井睦美君） おむつクーポン券を出したほうがいいというのもあって、それで出産祝い金になったんだと思います。

○議長（千葉 隆君） 実情がどこまでどうなのか把握はしていないんだけど、要するに前期のときに小学校、中学生の学校給食を無償化したんだけど、それではその前の学童保育所やそれから放課後児童クラブだとか、保育所、幼稚園でそれぞれの事業所自体で

給食やっているところもあるし、制度、全然別々なんだよね。その辺を統一して給食の完全給食を導入して、そこは負担をどうするかという部分もあるだろうし、また小学校、中学校みたいに、給食やるけれどもアレルギーの人は別途給付というのものもあるだろうし、そのところを今まで小中学校は無料だけれども、それじゃあなぜそのところは無料か、有料か以前のところがあるんですよね。だからそういうところを議論して、そこにお金を投入するというのをやっていかないと、だから子育て支援だから親が弁当作るのは大変だから小中学校の部分もあるだろうし、春休み、夏休みの部分、それじゃあご飯食べれない低所得者の方がいたらおそらく地域によっては子ども食堂作ってるんだよね。そういう本当に困っているところをアンケートもあるけれども、自分たちの足とか研究して実態の部分もやっていかなければならないと思うので、ただこの給食の部分は、こっちは給食やって無料にする。こっちは行政的には何もやっていないという部分があるから、その辺調査しながら、ある程度、制度的に矛盾起こさない感じで繋げていくのは最低限やらないとないと思うんだけれども、それが小学校前は入学金くれるという、出産は別にして、そちらのほうの部分で少しでもどれくらいかかるのかとか必要であればそういうのも調査したほうがいいのではないかと、まずは最低限。

○委員長（赤井睦美君） 前に文厚で落部のPTAの方と話をしたときに、小学校給食無料なのになんで保育園は無料にしないんだってという声も出て、それで町としては保育料はこんなに安くなってるから、せめて給食費くらいは自分たちで出してもらわないと困るといふそういう意見もありました。あと今給食費も所得に応じて無料の方が結構多いですよ。保育園の給食費。町が負担するという方も所得に応じて生活保護世帯以外の低所得者たちの給食費も無料というところは八雲町はあります。あとさらに広げると義務教育ではないんですけれども、高校にも給食が出せないのかという声もあります。前は人数が多かったから高校まで作れないという給食センターのお話でしたが、今児童数も減っているんで、多分高校の人数も減っているし、人数的にはそんなに大変ではないのかなと思いますけれども、そういったところの調査も含めてやっていくという感じもあるんですね。あと高校生は給食高校生になっても食べたくないって声は生徒からありました。

まずどうでしょう。このお祝い金というところで。ここはトータルしてなしにしてもっと違ったかたちでお金を使うということにするのか、お祝い金ならいいんじゃないってそれ以降の次の話の入学祝、卒業祝いのところで考えていくか、お祝い金のほうはどうでしょう。

○委員（斎藤 實君） お祝い金そのままがいいんじゃないの。今背伸びしたら。

○委員長（赤井睦美君） 入学、卒業祝いは別として、出産祝い金については、これでいいんじゃないかという声もありますけれども、どうですか。皆さんも総意のもと。

○委員（斎藤 實君） いいんじゃないですか。

○委員（関口正博君） 出産祝い金でいいと思います。

○委員長（赤井睦美君） 本当に赤ちゃんの数が減っているんでこんなにかからないと思いますけれども、でも本当いつまで維持できるかですよ。収入も限られてくるし、ふるさと納税だって全部サーモンにっちゃうという心配もありますし、この何年かやって今年からお金ないからあげませんというのは町の施策としてどうなのかという疑問もありますけれども。

○委員（佐藤智子君） 高齢者でたくさん99歳になったらとか、80歳になったらいくらくらいって高齢者には支給されていたんですよね。総額年間いくらか分からないけれども。それを行革というか、合併したあたりからなくなって、バスタオルのような記念品に代わってそんなに高齢者の方がそれで行動を起こすとかってなかったから、仕方ないんじゃないかみたいなことで収まったんですよね。熊石もお祝い金ってあったんですか。高齢者のほう。

○委員（斎藤 實君） ありましたよ。だけど現金で出したかな。その辺はちょっと。

○委員（佐藤智子君） 高齢者と比べるのもおかしいですけども。

○委員（斎藤 實君） ただバスタオルとかってそういう時代ではないんじゃないのかなって感じはするけれどもね。かえて商品券のほうがいい。

○委員（佐藤智子君） 話をそらしてすみませんでした。今コロナだから大方お祝い金のほうが。

○委員長（赤井睦美君） 行政側に質問してもいつまでちゃんと確約できるって聞いたって、それは全然確約はできないと思うんですけども、なかったものをもらうのは凄くラッキーですけども、あったものが今年からないというのはものすごい落差ですよ。だからやっぱりもうできませんということがないように、維持していけるのであればという条件の下でお祝い金だけは。一応町としては、とりあえず5年間は計画していますという意味ですかね。それとも5年間やるとこれだけかかりますというだけの5年間ですか。

○議会事務局庶務係長（松田 力君） 今日添付している予算の試算資料ですけども、これは令和3年の12月に開かれた常任委員会の際に、住民生活課のほうから提出していただいた書類をもう一度確認のために添付しております。そのときの説明では、ここで区切るとは言っていませんけれども、当面の予算の試算資料として5か年提出していたということです。これが続くとこれで5年で終わるということではなくて、あくまで当面の予算の積算資料ということで添付されたものでよろしいと思います。

○委員長（赤井睦美君） 次のことも含めて話をすると変わってきてしまうかもしれませんが、先ほど議長から提案があったように、給食費、全子どもに出すとなると、この出産祝い金を含めて使うということになってしまうかもしれないので、そこは今のところずっと継続するという条件に出産祝い金は今のところOKにして次の話をしてから最後にトータルして話をしたいと思います。

じゃあ、二枚目の入学金卒業お祝い金交付事業ですけども、小学校中学校の入学と、中学校卒業するときに10万円ずつ。

小学校はランドセル買うためのお金ですね。それと中学校の制服と中学校卒業するときに高校の制服という考え方で小学校の入学と中学校の入学、中学校の卒業ということで各10万円ずつになっています。そのことについては先ほどは関口議員から出産はいいけれども、これは担保がちゃんとした根拠、担保がはっきりしていないのにこれはないんじゃないかというのもありました。あとは全体的に子育てを考えたときに個人にあげるんじゃなくて子育てのしやすい、町全体の政策に使うべきだという点もありました。出産祝い金はいいいけれども、入学金はそこまでいらんんじゃないかという意見もあります。文厚としては制服タダにしてくださいと提案してしまったためにこういうのが出てきたんだと思うんですけども、ただ、制服をただにしてと言ったときは医療費も給食費も無料ではなかったんで

すね。そういうのを考えたら月 5,000 円くらいですか給食費。それを 1 年間貯金したら制服も買えるのではないかと、3 年分貯金してたらもっと買えるんですけども、そういうことを考えたらこれはいけないという考え方もありますし、その辺皆さんからご意見よろしくお願いいたします。

○委員（大久保建一君） はい。

○委員長（赤井睦美君） 大久保さん。

○委員（大久保建一君） もらう側からしたらこんなのすごくいいと思うけれども、こんな生まれてもらって入学してもらって、卒業してもらってって節目節目で全部貰ってでしょ。いけないんじゃないのこんなの。

○委員（関口正博君） だからって八雲に残るってわけじゃないですからね。そのために出すというわけではないですけども。

○委員長（赤井睦美君） いくら行政でも、できることって限られていますので、個人に行くことが本当にいいのか、それをいかして町全体の子育て政策に使うということがいいのかと考えたときに、保護者の方が当然個人でもらうのが一番いいと思いますけれども、議会として考えたときには、町の全体と今後中長期的に考えたことを含めて考えていきたいと思えます。

入学祝い金に関してはばらまきだからいけないということで、ほかに意見はありませんか。

○委員（倉地清子君） 私も定期的に現金を支給するという形は、私も子育て中ですけども、小学校今年卒業して中学校に入学するし、まだ小学生いるんですけども、でもそれよりはやっぱり子どものことだけでも、いつか三澤議員さんが言っていた図書館の使い方をもうちょっと使いやすいとか喜んでもらえるような環境の整備とかも私もずっと考えていて、そういうところにお金を使ってもらったら、子ども達はいくんじゃなかったらそういう保護者の目線でいうと、この支給ということに関しては反対かなと。

○委員長（赤井睦美君） ほかにありませんか。

町長はプールと図書館のお金高いからできるだけ維持したくないみたいな。スキー場とプールだ。予算委員会の休憩時間に。正式ではなくて休憩時間におっしゃっていたんですけども、プールもスキー場も確かに行政からしたら全然お金になるものではないけれども、子ども達からしたら本当に必要なものなんですよ。

○委員（大久保建一君） だけど過去の答弁では、岩村町長じゃないかもしれないけれども、あれ教育資産だから採算を求めるものではないって言ったんだよ。

○委員長（赤井睦美君） だけどついこの間の予算委員会だね、誰かそういうふうに提案してくれないかなって言っていましたがけれども。ただ、八雲の海って泳げればいいんだけど、海で泳いじゃいけないじゃないですか。もちろん川も駄目だし。そしたらプールなかったらどこで泳げばいいのってことになるし、スキー場もそうですよね。だからそういうもし本当にそれがお金がかかって大変なら今おっしゃったように図書館の充実や施設の充実に回したほうがいいのではないかと思います。

○委員（斎藤 實君） ただ、プールさ、夏場はいいと思うんだよね。冬場のこのあれはどうかなんだろうと。冬の期間ね。ボイラーを使うわけだから。だからその間あれするともうちょっと金額的には費用のランニングコスト落とせる感じがするけどね。

○委員長（赤井睦美君） 個人的に言うとうちの幼稚園は冬でもプールに通っているんです。

○委員（斎藤 實君） そう。

○委員長（赤井睦美君） 年中使えるから年中使っているんですけども、冬に使えるというのは高齢者の方が雪道だと滑って転んで骨折したら困るから、歩くプールで鍛えるって言う目的もあって、リハビリとかにも使われているんですけども、だから建て方だと思うんです。維持費があまりかからない建て方を工夫してくれたら。

○委員（斎藤 實君） そう簡単に結論は出ないね。

○委員長（赤井睦美君） 施設を整えるということに。

○委員（斎藤 實君） どっちかだと思う。

○委員（大久保健一君） この祝い金にしても、もし出すなら中学校卒業1回にするとか、そんなに毎回毎回はいらんんじゃないかなって。中学校卒業であれば、たとえば本当に進学を考えるなら八雲高校じゃないところに出す親も多いから、そのためにお金がかかるということは凄く多いと思うんだ。だからそれは凄く意味があると思うんですけども、3回も必要ないと思う。出すのであればね。

○委員（斎藤 實君） 出産も今計画して10万円だけでも別なところからも出てるよね。

○委員長（赤井睦美君） 病院の出産費用というのだけ。お祝い金は出てないです。

○委員（斎藤 實君） そのほかになんかなかったかな。

○委員（大久保健一君） ないんじゃないですか。医療費として出てるだけ。

○委員（斎藤 實君） それこそアンケートで子育ての人に聞いてみたほうが。施設のほうがいいのかこのほうがいいのか問いかけて。だけどそれもまた。

○委員長（赤井睦美君） 絶対現金のほうがいいですよ。

○委員（佐藤智子君） もしやるとなったらすごい話題性があると思うけれども、やっぱりいつまでも続かないと思いますし、ほかの施策にあてたほうがいいのではないのでしょうか。

○委員（大久保健一君） 1年やらないとスケートボードパークできない。

○委員長（赤井睦美君） 今度住民生活課の方をお招きして、結果をお伝えしてそれがそのとおりになるか分かりませんが、一応委員会としては出産のお祝い金に関してはいいのではないかと。ただ毎回入学卒業であげるのはなしで、その分の経費を子育ての充実に施設だとか学力向上だとかに含めて、そっちに活用したほうがいいのではないかという考えでよろしいですか。

あと先ほど千葉議長からありましたけれども、子ども達の完全給食ということも含めて私たちは今後、調査しながら考えていくと。その今、雪解けでまだサランベ公園とかはまだちゃんと入れないんですけども、何件かから遊具がひどくて遊べない。せっかく公園があって遊具があってもそれが遊べる状態にないと何人も困っている人がいるという声もあって一度私たちが前に見に行きましたけれども、本当に遊具遊べる状況になっているのか、もし例えばサランベ公園のロケット滑り台とかは使っちゃいけないのでさっさと撤去しち

やったほうが危なくないし、そういうところも見ながら環境を整えていきたいと思っています。

○委員（佐藤智子君） 今相生町の学童保育の体育館のあそこが更地にされる計画が。なんかあそこは昔から児童館というのでちょっとなじみのある場所なので、ただただ更地になってしまうのは残念なんですよ。なんか良い使い道というか、ただ更地になって終わりでいいのかなというのがあるので、何も具体的なものはないんですけども、何年か前に子ども若者プラザとかってその名称がいいかどうか分からないんですけども、行政の担当者から、あその場所について考えたこともあったので、なんか子どもらの更地になったとしても今気軽にボールとかで遊べる場所もあまりないので、そういう機能を持たせた広場にするとかかってできないのかなって若干思っているんで、一応お話をしておきます。

○委員（大久保健一君） 公園を作れってことなの。

○委員（佐藤智子君） なんだろうな。あまりそんなにぼんやりしてごめんなさい。はっきりしたものはないです。

○委員長（赤井睦美君） 子育て支援センターって、あそこだよ。庁舎建てたら子育て支援センターって今更地にするって話があるんですけども、庁舎の中に引っ越しすんでしたっけ。ここになるんでしたっけ。

○委員（大久保健一君） ここって言ってなかった。新しく建てたほうを使ってどうのこうのって言ってた気がするけれども。

（何か言う声あり）

○委員（大久保健一君） そしたらどっちみち栄町なんだ。

（何か言う声あり）

○委員長（赤井睦美君） 施設だったら総務委員会になってしまうんですけども、子育ての施策で必要な施設も出てくると思うので、その辺も調査しましょう。

（何か言う声あり）

○委員長（赤井睦美君） では、はっきりとした結論は出ていないのですが、一応出産祝いということで10万円はほぼほぼOK、それで入学、卒業祝い金はなしで、ハード面やソフト面の子育て支援策に使ったほうがいいのではないかという結論でよろしいですか。そして出産祝い金に関してもちゃんとした維持できる根拠を出してほしいと。難しいけれども、そこをしっかりとしなければ、今年で終わるというふうにならないようにしてほしいというふうにしてもらいたいと思います。

これって、お返事は急ぐんですよ。アンケート待ってたら遅いですよね。

○議会事務局庶務係長（松田 力君） 町としては昨年の12月に報告されてこのような政策を考えたということで、令和4年からの実施を考えて積算しておりましたけれども、そういう施策をしたいと町のほうで考えているということではできる限り早くスタートしたいということではあると思うので、委員会としての結論は早いに越したことはないと思いますが、委員会としてきちんとした結論を出すということを目的と考えると、もう少し時間が必要なのかなのかということはこの委員会の中での判断になります。

○委員長（赤井睦美君） どうでしょう。結論。

○委員（能登谷正人君） 皆さんに思い出してもらいたいですけれども、議会報告会、落部でやったときに、お母さん方が視察に来てくれたときに、高校の入学するときに非常にお金がかかると。それでなおかつ運動着のなんか落部と八雲とが制服が違うので、そのまま八雲高校に行けないという不平も結構出ていたと思うんですけれども、それとこれはこの問題に関係ないんですけれども、スポーツするのにバスを出してくれとあって、そういう要望もあった気がするんですけれども、その辺も関連をちょっと支給額のほうに考えてもらいたいなど。そのときに確か担当課のほうに申し入れをした記憶があるんですけれども、自分も定かにはっきりした言葉覚えてないんですけれども、そういう要望を受けてきたという事実が皆さん持っていると思うんですけれども、その辺も考えて支給額についてはちょっと全部が駄目というのではなくて、なんか一点くらい残しておいたほうが議会報告会に行ったときの対応としてよろしいのではないかと思うんですけれども。確かそうですね。委員長ね。

○委員長（赤井睦美君） はい。ありがとうございます。

バスを出してほしいというのはスポーツ少年団のことですよ。それで送り迎えはどちらかでって、もし送ってくれるなら帰りは自分たちでいきますって話があったんですけれども、そしたら昔のことを例に出されて、昔スキー場にバスを出してほしいと言われたからバスを出したら誰も乗らなかったとか、だから本当に乗って自分たちが集約してくれるならいいという話でしたけれども、そこはちゃんと話し合いながらやっていきたいと思いません。

それで今の高校入学でお金がかかる、制服、八雲高校も中学校は紺だけれども高校は黒なんですよね。だからズボンもそのままはけるということにはなっていないので、同じくお金がかかると思いますがけれども、先ほど大久保さんから中学校卒業するときには他所に行く人も出るし出してもいいのではないかと。能登谷さんからもそういうことが出ていたから中学校卒業に関しては出してもいいのではないかという声もあります。

すごい本当にひどい言い方ですけども、今もうみんな給食費タダだから医療費もタダだから何にも感じてないと思うんですけれども、町としては助けるために無料にしてきたわけだから、本来なら給食費分とかそういうのを貯金していくと全部をそっちにいかせるわけで、それで無料無料というけれども、実は税金でまかなっているんで、どこかもしかしたら自分たちに足りなくなったら違うところが窮屈になっていくということも、ちゃんと私たちは知らせていかなければならない。タダですとか、お祝い金ですってそんな単純なことではなくって、タダになったらその分ちゃんと確保しておいてこういうことにいかしてくださいとか、それからお祝い金ですけれども、これは実は全部税金なんですよと。その分どこか削られてるかもしれないところもちゃんと伝えたり、ちゃんと永久に行かない理由とかも私たちは一緒に言わないと全部無料になっちゃって子育て支援がすごく充実してよかったねで終わってしまうので、そういうのを全部税金で無料になった分は考えていきましょうというところも付け加えないと私はまずいと最近思っています。けどなかなか今回も商品券も出ましたよね。そういうことでいろいろ考えて子ども達にもコロナの関係で10万円出ましたし、本当にその使い道を聞いたときに、やっぱり貰うとそういうふうになってしまうんだなっていう例が多かったんで、これは本当に貴重な税金の中からこう

やって子育て支援として出しているということは委員会としてしっかりと伝えていく機会をもって伝えていかなければいけないと思っています。

だって給食費も1年分考えたらすごい金額ですよ。それを3年間貯金したら全然制服なんて楽々買える。でもそうは考えないんですね。

○委員（大久保健一君） 隔年で出したらいいでしょ。

（何か言う声あり）

○委員長（赤井睦美君） じゃあ戻りますが、出産祝い金と中学卒業祝いという声が出ていますけれども、どうですか皆さん。

○委員（関口正博君） はい。

○委員長（赤井睦美君） 関口委員。

○委員（関口正博君） 僕はやっぱり慎重にあるべきだと思います。入学は。当然その家庭によっていろいろ状況も違いますし、本当に必要にしている方とそうでもない方は当然いらっしゃいますし、これからというのはもっともっと顕著になってくる気はするんですね。先ほど議長のほうからも子ども食堂なんて元々ここでは考えられなかったことが、実際にこれから八雲町に起きてくる可能性があるということ考えたときに、必要なときにちゃんと必要な手当ができる町であっていただきたいなど。結局、出すのは気持ちいいんです。もちろん気持ちいいです。議員として。10万円もらえるのは有り難いんですけども、結果、委員長が言うように将来世代の負担になるということも同時にちゃんと伝えていかないと、単なるばらまきだし、本当に必要なときにらせる自治体であっていただきたいと考えたときにはばらまきのものは慎重であってほしいなというふうに思いますし、時代によって求められるものはどんどん変わってくると思いますので、今はこうでも将来変わってくる可能性があるから。僕は今の段階で入学金に関しては慎重であるべきかなと思います。

○委員長（赤井睦美君） みなさんどうですか。

全体で考えたときは、本当に出してあげましょうって簡単に言えないんですよ。

○委員（斎藤 實君） そしたら全体として中学卒だけ10万円という考え方はどうですか。

○委員（大久保健一君） 出産は出さないでってこと。

○委員長（赤井睦美君） 出産と中学卒業ということですよ。

○委員（斎藤 實君） せいぜいできてもそれくらいって感じがするんだけどね。

だからジャージなんかでも本当にオープンにしてくれたら一番いいんだよね。何を合わせる必要があるのかっていう。僕はPTAやってたときはやっぱりいいと思ってたけれども、つい最近はそうでないと思う。

○委員長（赤井睦美君） そう思いますよ。

先ほど必要なときに必要な対策がすぐとれる状況を作っておくということもきちっと伝えて、それで出産金と中学校卒業祝い金のみOKということでもよろしいですか。皆さんどうですか。

私はお金がなくて学べない子とか塾に行けない、今は学校もすごく大変でなかなか授業についてこれない子たちに対応ができないので、そういう子こそ塾に行けたらいいなど。その費用を考えると、こんなお祝い金ではなくて皆に教育の平等なチャンスを与えてあげたいと私自身は思います。

○委員（大久保建一君） 松前かどこかに、公設の塾かなんかなかったっけ。

○委員長（赤井睦美君） 厚沢部かどこかにもあるんですよ。八雲に塾が多いから、民間を圧迫するということでそれができないっていつか話し合ったんですけれども。

（何か言う声あり）

○委員（能登谷正人君） 八雲くらいになるとボランティアなんかでやってくれるような人とか学校の先生、退職した人というボランティアでやってもいいという、そういうことを行政では考えられないのかな。今ある5か所もあれば民間圧迫するって怒られるかもしれないけれども。でもそういう勉強したいけれども、ついていけないという子ども達には。だけでも塾行きたいけども高くて行けないという。そういう子には行政でもある程度考えたほうがいいのではないかと。今言ったみたいに、だから別に構わないと思うんだけどね。

○委員長（赤井睦美君） もし経営圧迫するのであれば、塾に行っている子どもたちみんなに補助するとか。

○委員（能登谷正人君） それならそれでいいけれども、そういうのもあったらいいと思いますけれども。

○委員（斎藤 實君） 塾は分かるんだけど、そしたら学校教育というのは何なのってそこに行きつくんじゃないの。学校ってあってもなくてもいいんじゃないのって。

○委員（佐藤智子君） 塾というのは進学で出している子とか、どちらかといったら勉強ができる子たちが行くという傾向ですよ。だから学力が実についていない子たちのための名称は分からないけれども、寺子屋だとか。

○委員（斎藤 實君） それだったら逆に教育委員会のほうにそういう対策をあるわけだから、学校教育の中でどういうふうにやったらできるのか、その辺を考えてもらったほうがいいんじゃないの。

○委員（佐藤智子君） やっぱ文厚では教育も管轄じゃないですか。今回はこれ住民生活課関連で予算が付くだろうけれども、教育のほうでは教育費から出るような予算配分をしてもらうという働きかけというのをしていけたら。

○委員（斎藤 實君） だけど塾に補助金は俺は反対だな。

○委員（大久保建一君） 今はちょっとこれを話し合う場ではない。

○委員長（赤井睦美君） すみません。私です。

○委員（大久保建一君） そこまで広げ過ぎても話しまとまらないんじゃないかなって。

○委員（関口正博君） 多数決でいいんじゃないですか。それぞれ意見はあると思うけれども。

○委員長（赤井睦美君） やっぱり子育てって住民生活課だけで解決しない問題がいっぱいあるので。

○委員（能登谷正人君） 時間ばかり経ってあれなんだけれども、さっき言った関口君が言ったみたいに行政側で予算をこういうふうにして出してきてくれているので、余裕があるから出してきてくれるので、我々としたら町の財政も考えなければならない。また民間のそういう人方のことも考えなければいけないという立場、両方考えなければならない立場ですけれども、今関口君が言ってくれたみたいに、そのときそのときで時代とともにいろいろ変わっていくので、推し進めたらいいと思うんですけれども。町の予算が間に合うようであ

ればね。大変だと思うんです。なにも予想しない、ここには関係ないけれども、コロナの関係でいろいろ町もかなり出費しているので大変だと思いますけれども、町でやってくれるというなら町民の人が喜ぶようにしたほうがいいという思いも。そうだよな。そういうこともあるよな。

○委員長（赤井睦美君） では、話し合った結果、出産祝いと中学卒業はほぼOKという意見だけれども、委員会としては結論がはっきりと明確に出せないけれども、そのときにおこることに柔軟に対応できる体制は作ってほしいということでもいいですかね。

○委員（大久保健一君） もう一回。

○委員長（赤井睦美君） まず出産祝い金はOK。それから中学校卒業祝い金もOK。これはお金がかかるとかというのもあって。ただし、これがちゃんと続けられるという担保がないと、私たちも単純なばらまきであっては困るし、それからさっきおっしゃったように、なにか発生したときに、町としてはそれに子育てできちんとした対応ができる。お金がないからできないとかではなくて対応するという姿勢もちゃんと持ってほしいと。そのために私たちは全額許すのではなくてこことここだけで限りますって。こんなことではだめでしょうか。

○委員（能登谷正人君） いいですね。

○委員長（赤井睦美君） ですね。どうですか大久保さん。

○委員（大久保健一君） どういう表現になるか分からないけれども。

○委員長（赤井睦美君） でも、住民生活課の方が来たら一応それは伝えるけれども、みなさんからもそのときの意見とかも伝えていきたいと思います。でも本当は、行政としては給食費も医療費もタダなんだから、ちゃんと貯金して進学するにしてもそれを使ってくださいという考え方はあったと思うんですよね。まさかお金が余っているから全部タダにしますということではないので、そこら辺も委員会としては保護者にしっかりと伝えていきたいと思います。

それから、さっきちょっと出ていた、保育所の給食費とかそういうことですが、これは調査しながら、学童も含めて、調査しながら提案もしていけたらと思っておりますが、よろしいですかね。

○委員（倉地清子君） はい。

○委員長（赤井睦美君） 倉地委員。

○委員（倉地清子君） 調査のことなんですけれども、この委員会での調査ということ。

○委員長（赤井睦美君） 委員会で学童とかに行って話を聞くという感じです。

○委員（倉地清子君） わかりました。ありがとうございます。

○委員長（赤井睦美君） じゃあ時間もないので、アンケートをやりながらまた最後に確認したいと思いますけれども、よろしいですか。

アンケート項目ですが、ちょっと項目が多いので、もちろんカットするところはカットしていいんですけれども、まずこれお金が必要か必要でないかというアンケートではなくて八雲町が子育てしている方にとって本当に子育てしやすい環境かというのを確認したいんですよね。それでもし環境が不十分だってなったらどういうところが不十分なのかということを知ってなるべく子育てしやすい町というふうにしていきたいという思いで作って

ます。それで携帯でQRコードをかざすと質問が出てきてそれにスマホなりパソコンなりで答えるという形で、それで答えたのは事務局にそのままいって、事務局が集計のあれを作ってくれるとなっております。

対象は、高校生までの保護者、だから保育園、幼稚園、小学校、中学校、高校は各学校にチラシを入れてそこにQRコードをくっつけておくことができるんですけども、子育てを経験した方に対してはどういう方法で行うかはまだきちっとしていません。もしかしたら議会広報にQRコードをつけるとか、チラシを作ってQRコードをくっつけたのを町広報に挟むとかいろんな方法があると思うんですけども、そんな方法で意見を聞きたいと思っています。

それと、環境面でお伺いしますということで、外出の際に困ること今まで困ったことは何ですか。三つまで選んでくださいという項目があります。私自分で作っておきながら、5番の買い物や用事の合間に気分転換に子どもを遊ばせる場がないというのはいらないかなと思います。皆さんどうでしょう。

○委員（大久保健一君） 作った本人がそう思うんだったら変えていただいて。

○委員長（赤井睦美君） じゃあなし。ほかになかったですか。

（「なし」という声あり）

○委員長（赤井睦美君） 次、子どもの遊び場について日頃感じることは何ですかって、近くに遊び場がない、雨の日に遊べる場所がない、小学生がボール遊びをできるような広さの遊び場がない、遊具などの種類が充実していない、不衛生だ、遊具などの設備が古くて危険だ、公園など遊び場のトイレがおむつ替えや乳児、親子での利用に配慮されていない。その他、特に感じることはないとありますが、付け加えることなどありませんか。

なければ、次、保護者さん自身についてこれは大事にしたいなど。この1年間で病気やけがで幼稚園や保育園、学校をお休みした場合にどのように対応したか。父親が休んだ、母親が休んだ、親族・知人にみてもらった、父親又は母親のうち就労していない方が子どもをみた、ベビーシッターを利用したってこれベビーシッターって1件ある。仕方なく子どもだけで留守番をさせた、その他ということになっています。

次が、休んだときに思ったか。病児、病後児保育の施設って今八雲にないんですけども、病気になった場合に預かる場所ですね。それには一応お医者さんの診断と、利用料はかかるんですけども、看護師さんとかをお願いするので。一定の料金がかかりますけれども、そういうところは必要ですかというのと、あればいいのと利用したいと思わないという意見を聞きたいと思います。それで日頃お子さんを預かってもらえる方はいらっしゃるということで、そこに祖父母をはじめ、5項目作っています。あとは子育てに悩んでいることはどんなことですかというのと、仕事の両立や本当に子育てそのものの相談できる人がいないとか、いらいらしてぶつけるところがないとかの項目を作っているんですけども。

あとは子育てや子どもの教育について気軽に相談できる人や相談の場所がありますかってこれは聞きにくいと言われたので、子育てや教育について気軽に相談できる人はいますかで一つにして、気軽に相談できる場所がありますかで、ない、あるで一つずつ聞いたほうがいいのかという声があったので、これは一つずつにしたいと思います。それで相談できる人が

いるというところは、どんな人に相談しているのかというのを聞くのと、相談している場所があるというのは、どんな場所が相談しやすいかということも分けて、それで最後に相談すべき人がないか場所がないということも付け加えたいと思います。

あと問8は、子どもを育てることと働くことを両立するために必要なことはどういうことだと思いますかということで、ここに14項目書いています。今、働いていない方ももちろんいらっしゃるかもしれませんが、専業主婦という方が減ってきたのでこういう質問にしました。

それで問9、八雲町は子育てしやすい町だと思いますかということで、もし子育てしやすいならどこがしやすいのかというのと、しにくいならどんなところがしにくいのかを聞いて、だったらどんな支援が必要ですかと聞いて、最後に子育てに関する意見、要望をお願いしますとしました。

それで、入学の時期もあるので、5月の連休以降のでもいいくらいに、入学でごちゃごちゃしてるから、4月の下旬、連休前くらいにもしお手紙でQRコードを皆さんにお渡しできたらお渡しして、連休過ぎまでにお返事をいただくみたいな。そうするとまとめが5月のざばざばというのは5月末には見れるかなと思うんですけども、どんなものでしょうか。残念なことに事務局も変わってしまうので、サーモン室に行ってもやっってもらって。そういう予定を組んでも大丈夫ですか。

○議会事務局庶務係長（松田 力君） アンケートの実施で、アンケート項目がこれに設定したらすぐにウェブアンケートの作成の準備に係ることができるので、どれくらい時間がかかるかというのもあると思うんですけども、ある程度4月の下旬にはアンケートを配布できる条件に持っていったらいいかなと考えています。ただ、回答期間をどれくらい設けるかによって集計というのがいつまとめられるかということもあると。

○委員長（赤井睦美君） これは日数を置いたらいいとかじゃないですよ。あまり締め切りが長いと忘れてしまうので、なるべく締め切りは短く10日間とか。10日間で答えるというのはどうですかね。そんなに難しい質問はないので、1か月あるとみんな忘れてしまうからなるべく締め切りは早いほうがいいと思うんですけども、10日間くらいでというのはどうでしょう。

○委員（倉地清子君） 私は短くていいと思います。

○委員（佐藤智子君） 私は半月くらい。

○委員長（赤井睦美君） 4月の下旬にお手紙を配布して、5月の2週目、連休終わってから。5月の9日の週で集めるということでどうでしょうか。

○議会事務局庶務係長（松田 力君） もう少しアンケートを取る期間は10日でもいいんですけども、配布の方法やそういったものを考えると、4月の下旬に配布ができればいいかなくらいだと思うので、少しづれこむことはあると思いますけれども。

○委員長（赤井睦美君） 配布は、幼稚園、保育園、小学生、中学校、高校にまず学校に配布するというのと、子育て経験者ですね問題は。今もうお子様がいないんだけど、経験した方にも聞きましょうとなったときに、チラシを作って5月のはじめの広報に挟んで、5月は議会広報もあるからそれに挟む。

○議会事務局庶務係長（松田 力君） 挟むとすると、5月の9日での期間ということはまた変わってくるので。

○委員（大久保健一君） 経験者ってどこまでの経験者のことを言うの。60代とかにも問うの。その世代によって答えも違ってくると思う。だから現役の子育てしている人達だけでいいと思うけど。

○議会事務局庶務係長（松田 力君） 今、大久保委員がお話されたように、アンケートを答える相手が世代が違くと、回答の仕方も違うということもありますし、その子育て世帯に対するアンケート項目と多少聞き方も変わってくるので、アンケートの内容自体が例えば別建てで設けなければいけないことが出てくると思いますので、そこがはっきりしていないとどういうふうにするかの準備もできないので、まずは対象者、そしてアンケート内容、そして周知方法、これらを確定させないといついつまでに準備が整って周知してそれを回収するというスケジュールが立てられないと思うので、その対象者とアンケート項目の内容、周知の方法を確定させないといけないと思います。

○委員長（赤井睦美君） 今、大久保さんから、子育て中の人だけでいいという意見がありましたけれども、よろしいですかそれで。それだったらすぐに。いろんな意見を聞きたいということで出たんですけれども、今回は子育て経験中の人、子育て中の人になりました。

ほかに、締切りに関してはだいたい10日間くらいで事務局の進み具合と比べながら締切りを決めたいと思います。内容はどうですか。ほかに追加やカットしたいとか。できればここに出てきた意見を基に調査を進めていきたいと思っています。よろしいですか。

（「はい」という声あり）

○議会事務局庶務係長（松田 力君） よろしいですか。

○委員長（赤井睦美君） はい。

○議会事務局庶務係長（松田 力君） 今日はそのアンケートの実施する目的、一番に想定で書いていますけれども、ここは少し変わってくると考えていまして、今後文教厚生常任委員会で八雲町に必要な子育て政策を考えていく、協議していくうえで参考として皆さんの意見を聞くというアンケートの目的ということでよろしいですか。

○委員長（赤井睦美君） 是非。

○委員（能登谷正人君） これ配布はどうするんですか。

○委員長（赤井睦美君） えっと私も持ってないですけども、スマホでQRコードをかざすと全部アンケートが出てくるんですけども、そういうのをくっつけたお手紙を小学校、中学校、保育所に全部配って。

○委員（能登谷正人君） 住所わかるの。

○委員長（赤井睦美君） 学校に渡して配ってもらうの。

○委員（能登谷正人君） 俺たちの時代はそういう時代だったから、もらって親に中身は俺の悪口書いてて見て親に叩かれたりして。なんかそういうのを今でも生徒に持たせて大丈夫なの。

○委員長（赤井睦美君） 大丈夫です。

○委員（大久保健一君） 各学校の連絡LINEって今ないの。

- 委員長（赤井睦美君） LINEはありますけれども、LINEで送ってもらえるの。LINEはありますよね。小学校も中学校も。LINEに載せてもらうってできるんですか。
- 議会事務局庶務係長（松田 力君） それができるできないは私のほうでお答えはできないんですけども。
- 委員長（赤井睦美君） アンケートそのものをLINEに載せる技術的なことはできるんですか。
- 議会事務局庶務係長（松田 力君） LINEでQRコードを皆さんに周知するということは可能です。
- 委員長（赤井睦美君） それが学校側としてやるかどうかは。
- 議会事務局庶務係長（松田 力君） その保護者が登録しているLINEを使えるかどうかはちょっと私には。
- 委員長（赤井睦美君） 学校がいいよといえはできるんですね。それを聞いてできないといわれたらチラシを配る。そのほうがいいですね。どんどん時代が進んでいて想像もつかない。LINEで流した方が確実ですよ。子どもお手紙渡すのを忘れたってならないから。
- 委員（大久保健一君） なんでこんな先進的なものをアナログで配るんだろうって。
- 委員長（赤井睦美君） すみません。自分がそういうものを知らないからです。
- 委員（倉地清子君） クロームブックがあるからそれで学校がいいといったらお見せできますよね。それかツイタもんも。
- 委員長（赤井睦美君） ありがとうございます。
- じゃあ、学校へLINEを聞いてみます。駄目だったらチラシで。以上です。
- 次回っていつになるんでしたっけ。4月の。
- 議会事務局庶務係長（松田 力君） とりあえず予定として決めている定例の開催については、4月の第3木曜日ですので、4月21日、午前10時から文教厚生常任委員会の開催を予定しております。
- 委員長（赤井睦美君） 松田さんはいつまでここにいらっしゃるんですか。
- 議会事務局庶務係長（松田 力君） 辞令は4月1日に出ますので、4月1日付けで議会事務局から離れることとなります。
- 委員（大久保健一君） 担当まんま松田さんのを引き継ぐ感じ。
- 議会事務局庶務係長（松田 力君） そうですね。文教厚生常任委員会の担当は、おそらく後任の方が担当することになると思いますので、先ほどの事務の関係を後任のほうとも相談しながらスケジュールのほうは進めていきたいと思います。この4月21日の常任委員会開催の際に、先ほどの住民生活課のほうから提案されている子育て支援政策について委員会としての意見をあくまで伝えるということで、意見としては出産祝い金について、そして中学校の卒業のお祝い金については、委員会としてもいいのではないかと。それでただし前提として今後も継続して事業が続けられるのであればという前提があるということをお伝えすると。そして、小学校の入学、卒業についてはそこは必要ないのではないかと意見を町側に伝えるという予定でいるということ。
- 委員長（赤井睦美君） 本来なら送別会をしたいところですが、コロナということで駄目なのかなと。

- 委員（大久保建一君） もう蔓防解けたから関係ないんじゃないの。
- 委員長（赤井睦美君） 関係ない。  
（何か言う声あり）
- 委員長（赤井睦美君） ほかに意見はありませんか。  
（「なし」という声あり）
- 委員長（赤井睦美君） これで終わります。

[閉会 午前11時44分]